

第 62 回 歴史地理学会大会・総会プログラム

1. 期 日：2019年5月18日(土)・19日(日)および20日(月・巡検)
2. 会 場：立命館アジア太平洋大学 〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1
交 通：・JR「別府」駅東口より、バスで約40分、「立命館アジア太平洋大学」下車。
・福岡空港国際線ターミナルより高速バスで90分、「高速別府湾APU」下車。
・大分空港よりリムジンバスで40分、「亀川古市」でAPU行きのバスに乗換。
・別府港よりバスで約30分、「立命館アジア太平洋大学」下車。
※詳細は立命館アジア太平洋大学ホームページをご参照ください。
3. 日程：5月18日(土)
12:10～13:00 評議員会(F棟210号)
13:10～13:50 総 会(F棟209号)
14:00～15:50 公開講演会(F棟209号)
16:00～17:50 研究発表会[自由論題]・特別セッション(F棟209/210号)
18:00～19:30 懇 親 会(スチューデントユニオン1階カフェテリア)
5月19日(日)
10:00～15:00 研究発表会[自由論題・共同課題](F棟209/210号)
5月20日(月)
9:00～16:00 巡検(別府市・日出町)
4. 公開講演会
演 題：出口治明(立命館アジア太平洋大学学長)
「歴史と地理—キッシンジャーと地政学」
平井義人(日出町歴史資料館長)
「見落とされていた地理的要因—慶長豊後地震研究を巡って」
会 場：立命館アジア太平洋大学F棟209号
参加費：無 料
5. 研究発表会
自由論題および共同課題「地理教育と歴史地理」、特別セッション「他者の目で見えた近代地理認識：東アジアを中心として」
会 場：立命館アジア太平洋大学F棟209/210号
大会参加費：1,000円(当日、大会受付で資料集と引き換えにお支払いください)。
6. 懇親会
会場：立命館アジア太平洋大学スチューデントユニオン1階カフェテリア
会 費：4,000円。ただし学生会員は3,000円(当日、大会受付にてお支払いください)。
大分の郷土料理・地酒などを取りそろえるようにいたします。
7. 昼 食
18日(土)、19日(日)ともに、スチューデントユニオン1階カフェテリアが11:30～13:30、隣接するスチューデントユニオンIIの売店が11:00～17:00まで営業しています。
8. 巡 検
テーマ：「国際温泉観光都市別府と小藩分立の城下町日出」(別府市・日出町)

集 合：5月20日(月) 9時00分, JR別府駅改札前(参加者には集合地点地図を配布)

コース：(電車および徒歩により移動します。昼食は休憩時間に自由食とします)

別府駅(集合)→オンパクの竹瓦湯けむり散歩のコースを辿る→別府駅(1時間食事休憩)→暘谷駅→日出二の丸館→日出暘谷城址→日出町歴史資料館→鬼門櫓→武家屋敷→致道館(藩校)跡→城下カレイ養殖場→松屋寺→帆足万里の墓→暘谷駅(16時解散)

(進行によっては午後の観察ポイントを一部省略します)

案内者：轟博志(立命館アジア太平洋大)

参加費：電車代, 資料館入館料等を併せて約2,000円が必要です。

使用地形図：2万5千分の1地形図「別府東部」「別府西部」「杵築」

参加定員：最大25名, 最少5名

申し込み方法：5月3日(金)午後5時までに, 名前, 所属, 住所, 携帯電話番号を明記のうえ, 電子メールまたは葉書にて下記あてお申し込みください。期間厳守をお願いいたしますが, 参加定員に達した時点で受付を終了させていただきます。受付できなかった場合には, 電子メールまたは葉書にて御連絡差し上げます。

電子メール：hstod@apu.ac.jp (立命館アジア太平洋大学, 轟博志宛)

郵便宛先：〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1, 立命館アジア太平洋大学 轟博志宛

9. 宿泊情報

JR「別府」駅の周辺を始め, 別府市内には多くの宿泊施設がございますが, 昨今のインバウンド観光需要の増加を考慮して, 早めのご予約をお願いいたします。

10. 大会開催中(5月18日~19日)の緊急連絡先

立命館アジア太平洋大学 電話：0977-78-1026(轟研究室。不在の場合もあります)

〈大会実行委員会〉

轟博志(委員長, 立命館アジア太平洋大学), 平井義人(日出町歴史資料館長), 笹川秀夫(立命館アジア太平洋大学)

11. 研究発表会

◇5月18日 土曜日

●第1会場【自由論題】*は登壇者

F棟209号

〔座長：大城直樹〕

101(16:00-16:30) 宮本真二*(岡山理科大)・岩国市産業振興部：中世に陸化した岩国平野の土地開発史

102(16:30-17:00) 村上晴澄(立命館大)：室町時代前期の山陽道と瀬戸内海の風景—今川了俊の「道ゆきぶり」を事例として—

103(17:00-17:30) 大平晃久(長崎大)：戦後長崎における「不法占拠」バラック地区

●第2会場 特別セッション「他者の目で見えた近代地理認識：東アジアを中心として」

〔座長：轟 博志〕

F棟210号

16:00-17:50

201 米家泰作(京都大)：帝国日本のツーリズムと心象地理の空間構造

202 金鐘根(東北アジア歴史財団)：心象地理の観点から見た植民都市京城の二重都市論

203 丁致栄(韓国学中央研究院)：1917年外国人の金剛山旅行

◇5月19日 日曜日

●第1会場【自由論題】

F棟209号

<午前の部>

〔座長：川口 洋〕

104 (10:00-10:30) 兼岡真子 (茨城大・院) : 登米伊達家中による新田開発と土地所有

105 (10:30-11:00) 島本多敬 (立命館大) : 伊予吉田藩による裁許絵図関連資料の保管と領域管理

〔座長：天野宏司〕

106 (11:00-11:30) 花木宏直 (琉球大) : 地方作成海外渡航申請資料について—福岡県八女郡下広川村役場「海外渡航関係留」を中心に—

107 (11:30-12:00) 井口琢人 (神戸大) : 要塞地帯と外国人観光客—歴史資料としての図像史料の検討—

<午後の部>

〔座長：中西僚太郎〕

108 (13:00-13:30) 林 泰正 (中部大・院) : 近現代岐阜県可児郡における亜炭鉱山の経営主体

109 (13:30-14:00) 山田 誠 (京都大・名誉) : 戦時改描図に関する若干の新知見

110 (14:00-14:30) 渋谷鎮明 (中部大) : 朝鮮時代の農書に見る相宅の条件

●第2会場【共同課題】 *は登壇者

F棟210号

<午前の部>

〔座長：椿 真智子〕

204 (10:00-10:30) 大西真由 (雙葉学園中高) : 「日本の諸地域」における「歴史的背景」の視点の重要性

205 (10:30-11:00) 鈴木 允 (横浜国立大) : 地理学習における地域史の教材化—学園都市「国立」の成立と発展についての授業実践を事例に—

〔座長：三木一彦〕

206 (11:00-11:30) 椿真智子 (東京学芸大) : 身近な地域の経験・記憶にもとづく地理教育と地域史の融合—多摩地域の崖線・ハケを事例に—

207 (11:30-12:00) 関戸明子* (群馬大)・今井貴秀 (前橋市立芳賀小) : 歴史地理学の手法を活用した社会科教材の開発—前橋市を事例として—

<午後の部>

〔座長：関戸明子〕

208 (13:00-13:30) 清水克志* (秀明大)・押元常德 (八千代市立郷土博物館) : 教員養成課程における歴史地誌の学修と教育現場への応用—大学と博物館の連携による実践—

209 (13:30-14:00) 阿部志朗 (益田翔陽高) : GISを利用した高校地理学習における古地図の教材化

〔座長：井村博宣〕

210 (14:00-14:30) 藤田裕嗣 (神戸大) : 2018年度神戸大学「高度教養科目」受講生を通じてみた「地理総合」の課題と問題点

211 (14:30-15:00) 古田悦造 (東京学芸大・名誉) : 地理歴史科教育法における歴史地理学の意義

【立命館アジア太平洋大学へのアクセス】

<JR 別府駅から>

ルート① 別府駅西口より、亀の井バス 5 番(野口原経由)または 41 番(サファリ線)に乗車。料金:片道 560 円 所要時間:約 35 分

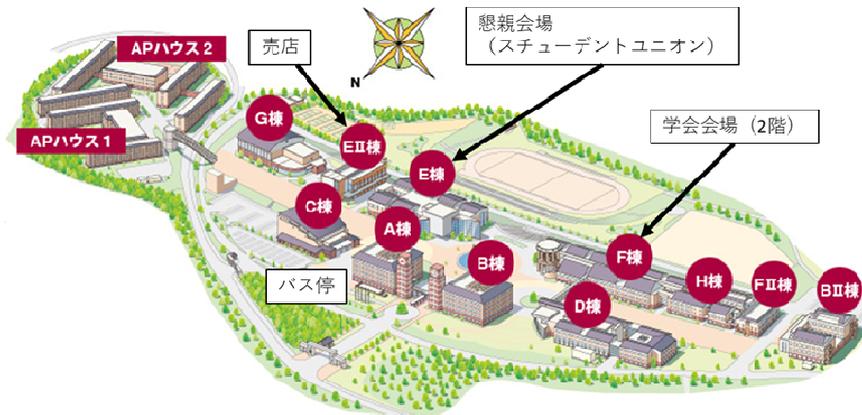
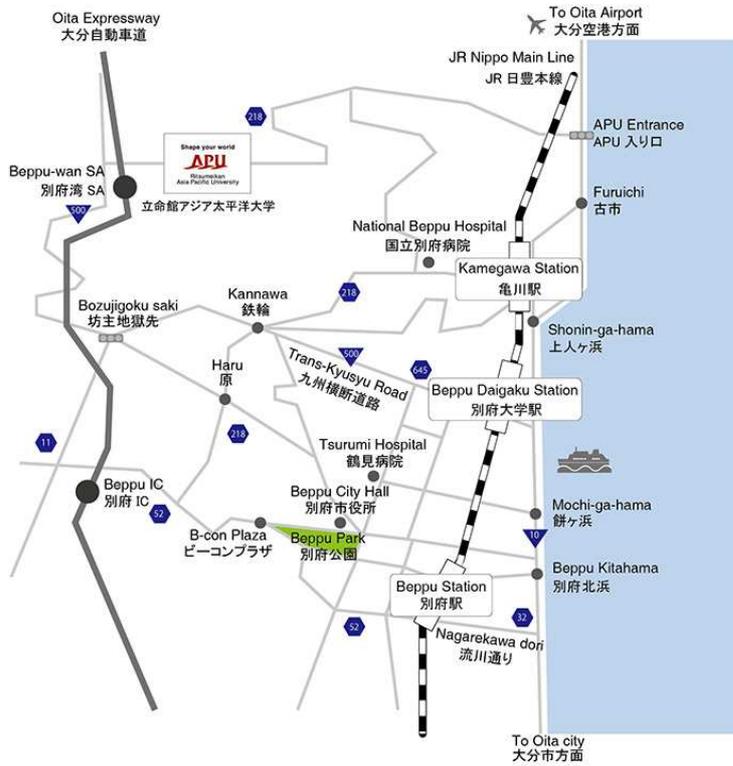
ルート② 別府駅東口より、亀の井バス 24 番(新港町経由)のバスに乗車。料金:片道 560 円 所要時間:約 40 分

ルート③ *このルートが最も頻繁に運行しています(15 分間隔以内)別府駅東口より、大分交通バス 50 番、51 番、または 55 番に乗車。料金:片道 560 円 所要時間:約 35 分 ※55 番は快速の為 25 分(途中下車なし)

<大分空港から>

①大分空港より、空港リムジンバス「エアライナー」に乗車。「亀川(古市)」で下車。料金:片道 1350 円 所要時間:約 35 分

②「亀川(古市)」バス停より、道の反対側へ渡り、大分交通バス「古市」バス停より「立命館アジア太平洋大学 APU」行きに乗り換える。料金:片道 340 円 所要時間:約 10 分



【キャンパスマップ】

学会行事はすべて「F 棟」2 階で行われます(ただし受付のみ 1 階)。

憩親会場は「学生団体ユニオン(E 棟)」になります。